

在セネガル日本国大使館月報

2023年11月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 13日、サル大統領はバ首相(次期大統領選挙での与党推薦候補)とともに国内視察を開始した。東部ケドゥグ市で同地域の開発に6千億FCFA(約1,200億円)を投資することを公表した。続いて、15日カオラック県、16日カフリヌ県、18日ファティック県を訪問した。(14-18日 大統領府 X、Le Soleil)

(外政)

- 11日、サル大統領はリヤドで開催中のガザ問題について協議するイスラム協力機構臨時首脳会合に参加した。マージンでオリギ・ングマ・ガボン暫定大統領とガボンの現状と民政移行について協議した。(11日 大統領府 X)
- 27-28日、国際会議場(CICAD)にて平和と安定のためのダカール国際フォーラムが開催され、サル大統領、堀井外務副大臣、ガズワニ・モーリタニア大統領、マルティンス・ギニアビサウ首相、セネガル関係閣僚らが出席した。(28日 Le Soleil)

(日本関連)

- 28日、堀井外務副大臣は、バルデ高等教育大臣とともに、平成26年度対セネガル無償資金協力「国立保健医療社会開発学校母子保健実習センター建設計画」の完工式に出席した。(12月2、3日 Le Soleil)

(社会)

- 16日、ピキヌ県保健当局は、8-10月にかけて同県で57件のデング熱感染が確認されたことを公表し、注意を呼びかけた。(17日 Walf Quotidien)

ガーボベルデ

- 8日、ネーヴェシュ大統領とピレス元大統領、フォンセカ前大統領の参加の下、「プレジデント・トーク」と題する討論会が開催され、イノベーションを中心としたカーボベルデの将来の政策について討論した。(8日 anacao)

ガンビア

- バロウ大統領は、開発プロジェクト視察の一環で、令和元年度対ガンビア無償資金協力「第四次地方飲料水供給計画」の現場を訪問し、日本の貢献に謝意を表明した。(25日 The Point)

ギニアビサウ

- 3日、最高裁判所のサンブ長官の自宅が、武装した集団に包囲される事件が発生した。容疑者の身元は判明していない。それを受け、ペレイラ国民議会議長は政府に対し、調査委員会を立ち上げるよう要請した。(5日 noticias ao minuto、O Democrata)
- 6日、サンブ最高裁長官は書簡を発出し、精神面・安全面から職務を続けられる状況にないとの理由で辞職することを公表した。事件を受け、政府与党のPai Terra Rankaの首領は、エンバロ大統領が軍隊をけしかけたとして非難した。(6日 O Democrata)

- 30日午後、セイディ経済・財務大臣及びモンテイロ国庫閣外大臣は60億FCFA(約1,000万米ドル)を商業銀行を通じて企業11社に支払いを行ったとの容疑で逮捕された。同日20時ごろ、国家警備隊の特殊部隊「即応介入部隊(BIR)」は、両大臣を解放すべく司法警察に侵入し、一時的に保護した。(30日 O Democrata)
- 12月1日未明、軍特別部隊と国家警備隊との銃撃戦の末、セイディ経済・財務大臣、モンテイロ国庫閣外大臣はBIR隊長とともに国軍により捕らえられ、再び司法警察の監視下に置かれた。(12月1日 O Democrata)

・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 2日、サル大統領は、国家憲兵隊司令部の落成式に出席し、治安強化に向け憲兵隊員を2025年までに35,000人まで増員する考えを表明した。(3日 Walf Quotidien)
- 7日、サル大統領は、セネガル軍の日の祭典に出席し、国の発展の基礎には平和と安全があることを強調した。また、2012年から2023年にかけて軍事費が250%拡大したと述べた。(7日 大統領府 X)
- 13日、3日の大統領令により国家独立選挙委員会の委員に任命された12名は、憲法評議会に対し法に従って職務を遂行することを宣誓した。同委員会は、次期大統領選挙の公正で円滑な遂行を任務とする。(14日 Le Soleil)
- 13日、サル大統領はバ首相(次期大統領選挙での与党推薦候補)とともに国内視察を開始した。東部ケドゥグ市で同地域の開発に6千億FCFA(約1,200億円)を投資することを公表した。続いて、15日カオラック県、16日カフリヌ県、18日ファティック県を訪問した。(14-18日 大統領府 X, Le Soleil)
- 10月12日にジガンシオール州裁判所が野党ソンコ旧PASTEF党首の選挙人名簿への再登録を命じる判決を下した件に関し、17日、最高裁判所は同判決を棄却する決定を下した。これによりソンコ元党首の出馬が否定された。19日、それを受け旧PASTEF事務局長のバシル・ジョマイ・ファイが大統領選挙の同党の候補者に選出された。(18-19日 Le Soleil)
- 30日、国民議会は2024年度当初予算案を可決した。7兆36億 FCFA(約1兆7,500万円)に上る。2023年度は6兆4,115億 FCFA(1兆2,823億円)。(12月1日 APS)

(外政)

二国間・多国間関係

- 9日、ファル外務大臣は、リヤドで開催中の経済会合に出席し、サウジアラビア政府との間でエネルギーと鉱物資源分野での合意書に署名した。(9日 外務大臣 X)
- 10日、サル大統領は第6回パリ平和フォーラムにマクロン仏大統領らと参加し、融資の仕組みの改革と手続きの改革を訴えた。(10日 大統領府 X)
- 11日、サル大統領はリヤドで開催中のガザ問題について協議するイスラム協力機構臨時首脳会合に参加した。マージンでオリギ・ンゲマ・ガボン暫定大統領とガボンの現状と民政移行について協議した。(11日 大統領府 X)

- 11日、サル大統領はリヤドにおいて、ウワタラ・コートジボワールに国家勲章を授与した。(11日 大統領府 X)
- 13日、サル大統領は、プーチン露大統領と電話会談を行い、第2回ロシア・アフリカ・サミットに続く両国間関係と国際情勢の現状について協議した。(13日 大統領 X)
- 17日、ファル外務大臣はインド主導の第2回グローバルサウスの声世界サミットにセネガルを代表して参加した。(17日 外務省 X)
- 19日、サル大統領は、ドイツで開催されたアフリカコンパクト首脳会合に出席し、ショルツ独首相と会談した。(20日 大統領府 X)
- 23日、サル大統領は大統領府にてヨハニス・ルーマニア大統領と会談した。(23日 大統領府 X)

国際情勢・国連機関支援等

- 5日、ファル外務大臣は、カメルーンのヤウンデで開催中のフランコフォニー国際機関の大臣級会合に出席し、ムシキワボ事務局長と会談した。(15日 外務大臣 X)
- 11日、サル大統領はガザ地区の人道問題に懸念を表明し、早期の平和秩序の確立を訴えかけた。(11日 大統領 X)
- 27-28日、国際会議場(CICAD)にて平和と安定のためのダカール国際フォーラムが開催され、サル大統領、堀井外務副大臣、ガズワニ・モーリタニア大統領、マルティンス・ギニアビサウ首相、セネガル関係閣僚らが出席した。(28日 Le Soleil)

日本関連

- 3日、日本の内閣府は、令和5年度秋の外国人勲章受章者を発表し、セネガルのパパ・ビラマ・チャム首相府政府事務局技術協力局長が旭日中綬章を受賞した。(8日 Le Soleil)
- 28日、堀井外務副大臣は、バルデ高等教育大臣とともに、平成26年度対セネガル無償資金協力「国立保健医療社会開発学校母子保健実習センター建設計画」の完工式に出席した。(12月2、3日 Le Soleil)

(経済)

経済一般

- 7日、国家再生可能エネルギー局のンジヤイ局長は、ジャーナリスト向けの啓発セミナーにおいて、セネガル電力公社が供給する電力のうち30～32%を再生可能エネルギーが占め、電源ミックスが進んでいることを強調した。(8日 APS)
- 21日、ファイ手工業・インフォーマルセクター改革大臣は、議会の新年度予算案説明会においてインフォーマルセクターの規模が対GDP比で42%に上り、労働人口の56%を占めるとの見解を示し、フォーマル化に向けた改革の必要性を説明した。(22日 Le Soleil)
- 30日、セネガル投資・大規模工事促進公社(APIX)は、中国 E-ROAD TONG・NRC との間で、ジャス経済特区の開発(50ヘクタール、5,000万米ドル)及び中国企業72社の進出について合意した。(12月1日 Seneweb)

(社会)

- 2日、保健省は、中国の医療団のメンバーに対し国家勲章を授与した。同医療団は、1975年に始まった医療団派遣の第19回派遣団で、ジャムニャジョ子供病院にて2年間医療活動に従事した。(2日 APS)

- 10月31日に公表された国勢調査の結果を受け、カネ・ダカール大学経済・経営学部教授は、労働人口の90%がインフォーマル／セクターに従事しているとの見方を示した。(4日 Walf Quotidien)
- インドゥール青少年大臣は、2021年に始まった若年層の雇用・社会統合プログラムにおいて4,500億FCFA(約900億円)を投資し、66,243人を雇用したことを公表した。(8日 APS)
- 8日、ヨーロッパに向かう不法移民を乗せた漁船の海難死亡事故が頻発している事態を受け、サル大統領は閣議において不法移民対策を講じるよう首相と担当大臣に指示した。(9日 Sud Quotidien)
- 15-19日の予定で、サンレイ市においてセネガル、モーリタニア、カーボベルデ、ギニアビサウの司教会議が開催され、政治、不法移民等について協議される。(16日 Sud Quotidien)
- 16日、ピキヌ保健当局は、8-10月にかけて同県で57件のデング熱感染が確認されたことを公表し、注意を呼びかけた。(17日 Walf Quotidien)

(文化・スポーツ)

- 6日、ウデア=カステラ仏スポーツ大臣はセネガルを訪問し、ダカール・ユースオリンピック2026に向けたスポーツ設備の改修のため1,500万ユーロを拠出することでセネガル政府と合意した。(7日 Le Soleil)
- 11日、在セネガル韓国大使館は、セネガルとの相互理解を目的に第3回韓国映画祭を開催し、2作品を上映した。(15日 Le Quotidien)

カーボベルデ

- 5日、サン・ヴィンセント島のミンデロとパリのオルリー空港を結ぶ便(Transavia航空)が就航を開始した。(5日 mindelinsite)
- レリシュ防衛大臣は、国家安全保障の日の祭典に合わせて開催された国家安全保障の新たな戦略概要計画に関する会合の開会式において、不安定化する国際環境の中で新たな戦略を策定することを公表した。また、同戦略ではNATOとの協力を進める方針が示された。(6日、13日 Expresso das Ilhas)
- 国民議会は、ギニア国民暫定評議会の代表団が議会及び行政機関との意見交換を目的に6日より一週間の予定でカーボベルデを訪問することを公表した。(6日 Expresso das Ilhas)
- 8日、ガルシア・コレイア副首相は議会にて、公的債務がGDP比で110%となると予想されることを受け、100%まで減少させることを目標とすることを語った。(8日 balai CV)
- 8日、ネーヴェシュ大統領とピレス元大統領、フォンセカ前大統領の参加の下、「プレジデント・トーク」と題する討論会が開催され、イノベーションを中心としたカーボベルデの将来の政策について討論した。(8日 anacao)
- リスボンで開催される2023ウェブサミットに50名を超えるカーボベルデ代表団が出席する。代表団はロプシュ・デジタル経済閣外大臣を筆頭にテクノロジー系スタートアップ企業関係者から成る。(13日 Expresso das Ilhas)
- 信用格付け会社のフィッチ・レーティグは、力強い経済回復が見られるとし、カーボベルデの格付けをB-に据え置いた。(13日 Expresso das Ilhas)
- 20日、ネーヴェシュ大統領は、ヨハニス・ルーマニア大統領を迎え、両国関係の強化について意見交換した。(22日 santiagomagazine)

- 22日、世銀はカーボベルデ政府に対し、都市インフラの整備と交通整備のため4,000万米ドルの支援をすることを公表した。(22日 balai CV)
- 22日、プライア市当局は、同市で12件のデング熱感染者が確認されたことを公表した。(23日 Expresso das Ilhas)

ガンビア

- 1日、政府はEUとUNDPのパートナーシップによりガンビアの民主化、人権の擁護、政府機関の強化を目的とする行動計画(予算9百万ユーロ)を公表した。(1日 The Point)
- 1日、政府報道官は、2026年大統領選挙に関するラジオ番組に出演し、バロウ大統領は出馬を検討中であることを公表した。(1日 The Point)
- スイスのシンクタンク・治安セクター・ガバナンス・ジュネーブセンターは、EUの資金援助によるガンビア警察の効率性・透明性強化に関する30か月の事業を完了した。(9日 The Point)
- 9日、バロウ大統領はサウジアラビアで開催される第12回イスラム協力機構の首脳会合に出席することを公表した。(9日 The Point)
- バロウ大統領はサウジアラビアにて同国開発ファンド総裁と会談し、次期イスラム協力機構の首脳会合をガンビアで開催する計画について協議した。(13日 The Point)
- 11日、中国・ガンビア友好協会がセレクンダ市で発足した。同協会はNGOとして登録され、両国の協力と相互理解を目的とする。(15日 The Point)
- バロウ大統領は、ガンビアの若者に対し、ヨーロッパへの不法移住の試みを止めるように呼びかけ、政府が提供する若者の能力向上機会を受けよう促した。(22日 The Point)
- バロウ大統領は、開発プロジェクト視察の一環で、令和元年度対ガンビア無償資金協力「第四次地方飲料水供給計画」の現場を訪問し、日本の貢献に謝意を表明した。(25日 The Point)

ギニアビサウ

- 3日、最高裁判所のサンブ長官の自宅が、武装した集団に包囲される事件が発生した。容疑者の身元は判明していない。それを受け、ペレイラ国民議会議長は政府に対し、調査委員会を立ち上げるよう要請した。(5日 noticias ao minuto、O Democrata)
- 6日、サンブ最高裁長官は書簡を発出し、精神面・安全面から職務を続けられる状況にないとの理由で辞職することを公表した。事件を受け、政府与党のPai Terra Rankaの首領は、エンバロ大統領が軍隊をけしかけたとして非難した。(6日 O Democrata)
- 6日、駐ギニアビサウ中国大使は、第6回中国国際輸入博覧会に関する記者会見にて、一帯一路構想とギニアビサウ政府による開発計画の相乗効果を高めるよう努めていくことを表明した。(12日 O Democrata)
- 7日、国防省はポルトガル政府と、軍人の訓練、通信設備の維持管理、海洋安全保障の分野で協力していくことで合意した。(7日 O Democrata)
- 9日、エンバロ大統領は、エクウェ西アフリカ開発銀行総裁と面会し、インフラ、農業、エネルギー分野について協議した。(9日 O Democrata)
- 16日、独立50周年式典が開催され、ティヌブ・ナイジェリア大統領、サス・ンゲソ・コンゴ共和国大統

領、バロウ・ガンビア大統領らのアフリカ大統領と4名の首相が出席した。(17日 Walf Quotidien)

- 30日午後、セイディ経済・財務大臣及びモンテイロ国庫閣外大臣は60億FCFA(約1,000万米ドル)を商業銀行を通じて企業11社に支払いを行ったとの容疑で逮捕された。同日20時ごろ、国家警備隊の特殊部隊「即応介入部隊(BIR)」は、両大臣を解放すべく司法警察に侵入し、一時的に保護した。(30日 O Democrata)
- 12月1日未明、軍特別部隊と国家警備隊との銃撃戦の末、セイディ経済・財務大臣、モンテイロ国庫閣外大臣はBIR隊長とともに国軍により捕らえられ、再び司法警察の監視下に置かれた。(12月1日 O Democrata)

(注)本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)